

令和4年(2022年度)

令和4年 6月 20日

学校関係者評価 報告書

一般財団法人 積善会
愛媛十全医療学院
学校関係者評価委員

一般財団法人積善会 愛媛十全医療学院 学校関係者評価委員は、令和元年度自己評価・外部委員評価に基づいて学校関係者評価を行いましたので、下記の通り報告いたします。

- 1 実施日：自己評価 令和4年 4月
外部評価 令和4年 5月～6月
- 2 実施方法：特別支援学校校長会会長の交代に伴い、県立みなら特別支援学校の校長先生を新たに外部評価委員に迎え、3名の外部委員には、施設訪問、web対応、電話連絡による個別対応とファイル形式での評価方法により実施した。
なお、対面による会議形式での委員会開催はコロナ禍を経て、必要な場合に限った開催へ変更した。

3 学校関係者外部評価委員

藤田 司	愛媛県特別支援学校校長会 会長
伊藤 雄規	十全総合病院 リハビリテーション技師長
青木 進治	介護老人保健施設 希望の館 作業療法士

<内部委員>

松田芳郎	(愛媛十全医療学院 学院長)
田中信政	(愛媛十全医療学院 事務長)
藤原雅弘	(愛媛十全医療学院 理学療法学科長)
福田 靖	(愛媛十全医療学院 作業療法学科長)

4 学校関係者評価の内容と実施状況

1)学校関係者評価の目的と方針

- ①関係業界・職能団体、高等学校、学生保護者、地域住民などの学校関係者が、本学院の自己評価の結果を評価することを通して、学校運営・教育活動を確認し、その客観性・透明性を高める。
- ②学校関係者評価により明確となった学校運営・教育活動における課題の改善を図る。
- ③学校関係者評価は、自己評価を基に、「専修学校における学校評価ガイドライン」及び本学院の学校評価実施規定に則り実施する。

2)評価方法と公表

学校関係者評価の実施にあたっては、当該年度に実施した「自己点検評価」を学校関係者委員の皆様にご確認いただき、自己点検評価の各項目に対するご意見と評価をとりまとめた。

各項目の評価結果や総評は、今後の本学院における教育活動や学生指導等、学校運営の改善に活かし、教育水準の向上に努めることとし、ホームページへ公表いたします。

5 学校関係者評価・意見

評価項目に対する学校関係者の評価及び意見や提案(以下、評価等という)を報告します。

- A 十分に達成している。 [達成度が高い]
- B 達成している。 [概ね達成しており改善を要しない]
- C 達成がやや不十分である。 [若干の改善を要する]
- D 達成が不十分である。 [不適合がある、改善を要する]

6 学校関係者評価項目

- 項目1 教育理念・目標・方針
- 項目2 学校運営
- 項目3 教育活動
- 項目4 教育成果
- 項目5 学生支援
- 項目6 教育環境
- 項目7 学生募集と受け入れ
- 項目8 財務
- 項目9 法令等の遵守
- 項目10 社会貢献・地域貢献

以下、評価項目に従い、自己評価ならびに学校関係者委員による結果と総評(意見等)を報告いたします。

D達成が不十分である

項目1 教育理念・目的・方針

◆ 自己点検評価の理由(他、課題や対応があれば)

昨年に引き続き感染対策の為、保護者会総会を中止とし、役員会による決算報告と予算承認、役員改選の報告と併せて、学院の教育方針等を書面等にてお伝えした。

◆ 自己点検評価の理由

コロナ禍において基本的なインターネットの環境整備を進めてきた。今後さらにハードとソフトの両面でアップグレードを図る必要がある。

評価基準) A十分に達成している

B達成している

C達成がやや不十分である

D達成が不十分である

経田 伊藤 青木

項目3 教育活動

点検項目		自己評価	外部委員評価		
①	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	A	A	A	A
②	教育目標に応じた教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	A	A	A	A
③	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	A	A	A	A
④	関連分野の医療施設との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	A	A	A	A
⑤	授業評価の実施・評価体制はあるか	A	A	A	A
⑥	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	A	A	A	A
⑦	成績評価・単位基準・進級・卒業判定の基準は明確になっているか	A	A	A	A
⑧	人材育成、目標に向け講義を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	A	A	A	A
⑨	関連分野における先端的な知識・技術等を修得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取り組みがおこなわれているか	A	A	A	A
⑩	教員の能力開発のための研修等が行われているか	B	B	B	B

◆ 自己点検評価の理由

教育理念に沿いながら養成施設指導ガイドラインの一部改正に伴うカリキュラム編成への準備を進め迅速に対応した。シラバスを公開し、学生は将来の自己像を具体的にイメージしながら自主的な学習への取り組みができるよう早期からの個別学習や相談支援を強化し対応した。さらに医療専門職として必要な高度医療に関する知識・技術の習得はもとより、医療倫理等をおし、職業人としての意識と自覚を確立できるようFD委員会と連携し、学生の授業評価も参照しながら講義内容を工夫し対応している。コロナ禍での学生教育では、オンライン講義や新しい生活様式に適應できるよう実体験をとおり適宜適切な対応に心がけ、共に考える姿勢が身につく自主的な行動を促すことができた事は一定の成果といえる。今年度も外部講師の対面授業が困難な状況が継続したが、オンライン講義で対応しつつ学生の学習到達度に不利益が生じないよう工夫した。今年度、オンラインを利用した講義は、前年度の経験から円滑に行うことができた。今後もIT機器の更なる活用やにに取り組む必要がある。

項目4 教育成果

点検項目		自己評価	外部委員評価		
①	資格取得率の向上、維持が図られているか	A	A	A	A
②	就職率の向上、維持が図られているか	A	A	A	A
③	退学率の低減が図られているか	B	B	A	B
④	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	B	B	B	B

◆ 自己点検評価の理由

常に国家試験合格率100%を目指し、国家試験対策講義や模擬試験を実施し個々の学生に応じた学科別対応や個人指導を計画し取り組んでいる。理学療法学科 新卒者 合格率 91.4% (全国平均 88.1%) * 昨年95.1%、一昨年100% 就職内定率:97.1%(3月時点) 作業療法学科 新卒者 合格率 100% (全国平均 88.7%) * 昨年に引き続き3年連続100% 就職内定率:88.9%(3月時点) 就職に関して、全国から多数の求人があり学生の希望を聞きながら早期からの相談支援を実施している。退学率の低減に対しては、日頃から学生の学習態度や生活面でサポートし適宜必要に応じて個別指導を早期から実施している。また、精神面でのサポートに関しては、カウンセラーを配置し担任とは別の立場でサポートしている。在学生の社会的な活動では、学習に支障が無い範囲で積極的にボランティア活動への参加を推奨している。卒業生は卒業後も積極的に参加している者も多数いる。今年に関しては、各イベントが中止されほぼ全てのボランティア参加が困難であった為、過去の映像等を活用し対応した。

評価基準) A十分に達成している

B達成している

C達成がやや不十分である

D達成が不十分である

藤田 伊藤 青木

項目5 学生支援

点検項目		自己評価	学校関係者評価		
①	就職に関する体制は整備されているか	A	A	A	A
②	学生相談に関する体制は整備されているか	A	A	A	A
③	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	C	C	B	C
④	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	A	A	A	A
⑤	課外活動に対する支援体制は整備されているか	C	C	C	B
⑥	学生の生活環境への支援は行われているか	C	C	B	B
⑦	保護者と適切に連携しているか	B	B	B	B
⑧	卒業生への支援体制はあるか	A	A	A	A

◆ 自己点検評価の理由

- ①求人閲覧室を設置し学生はいつでも求人情報を得られる環境にある。また、希望調査を行い随時就職相談の機会を設けている。
- ②学生相談に関しては、各学年複数担任制を導入し日々の出欠確認から生活面と学習面のサポートを実施、精神面ではカウンセラーに繋げ早期に対応。
- ③成績優秀者への学費免除等、特待生制度や表彰の機会を設けたり、学納費に困窮した場合の相談も個別窓口を設け対応している。
- ④健康診断の実施・日々の健康チェック及び行動履歴の把握に務める。体調不良者は附属病院での受診等。医療面においての支援体制を整備。
- ⑤課外活動は、学生自治会等を通して活動している。その際に相談などあれば支援を行っている。
- ⑥入学時の宿舍案内、各種任意保険、生活防犯対策、実習生活の対策等ガイダンス時に外部から専門家・講師を招き対応している。
- ⑦学生状況を把握し学習面・生活面で気になる学生への早期把握及び支援の目的で保護者へ連絡。保護者面談等を実施し学院と家庭と連携している。
- ⑧勉強会や研修会等に関して学内施設の提供等対応している。

項目6 教育環境

点検項目		自己評価	学校関係者評価		
①	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	B	B	B	A
②	学外の実習施設について十分な教育体制・生活環境を整備しているか	A	A	A	A
③	防災に対する体制は整備されているか	C	C	C	C
④	図書など教育上必要な資料が系統的に整備されているか	B	B	B	B

◆ 自己点検評価の理由

- 指定規則の一部改正に伴う新規教材等への対応については随時整備している。その他、教育上必要な教材の点検と整備を実施し対応する。
- オンライン講義に対応できる機材や備品の追加や部屋の確保。コロナ感染対策に関わる消毒液及びマスクの配備や体温チェックに必要な検温計の補充、施設内の教室利用や食堂利用時間の調整等できる限りの感染対策を実施。
- 実習に対しては、1.実習指導者講習会のサポート 2.実習受け入れ中止施設の振り替え調整や代替実習への対応 3.実習配置と宿舍の確保など 4.継続して宿舍費や生活備品及び移動にかかる交通費の一部負担対応等、学生間で格差が生じないように配慮した。
- ③危機管理マニュアルを見直しながら継続的に安全安心できる環境整備を心がける。一点、耐震診断を行うも補強工事が完了していないことが懸念材料である。整備新規図書の購入と既存図書の整理をしながら教育上必要な資料等の整理対応を行う。

評価基準) A十分に達成している

B達成している

C達成がやや不十分である

D達成が不十分である

藤田 伊藤 青木

項目7 学生募集と受け入れ

点検項目		自己評価	学校関係者評価		
①	学生募集活動は適正に行われているか	A	A	A	A
②	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	A	A	A	A
③	学納金は妥当なものとなっているか	B	B	B	B

◆ 自己点検評価の理由

広報室を中心に県下の高校を中心に訪問を実施している。その際に①学院パンフレット ②募集要項 ③オープンキャンパスの案内
④学院の教育実績 ⑤教育の方針説明を行っている。また、入学した学生状況については、学習と生活両面の状況報告を行っている。
HPIによる入試情報(試験日程及び科目や検定料等)や入学後の諸経費についても公開し対応している。

項目8 財務

点検項目		自己評価	学校関係者評価		
①	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	A	A	A	A
②	財務について会計監査が適正に行われているか	A	A	A	A
③	財務情報公開の体制整備はできているか	A	A	A	A

◆ 自己点検評価の理由

年度末には、事業計画に沿っての反省と課題を整理し、年度初めには前年度の反省を踏まえ事業計画を立案して報告書を作成。
報告書は、理事会・評議委員会へ提出し承認を得ている。
財務の情報公開は法人本部にて一括掲示している。学院で申し出を受けた場合、紙面を提示する体制をとっている。

項目9 法令等の遵守

点検項目		自己評価	学校関係者評価		
①	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	A	A	A	A
②	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	A	A	A	A
③	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	A	A	A	A
④	自己点検・自己評価の公開を行っているか	A	A	A	A

◆ 自己点検評価の理由

①毎年所管機関へ現状を報告している。重要事項については学院会議により決定している。
②個人情報保護規程を設け、対応している。
③第三者機関(リハビリテーション教育評価機構)により定期的な評価を受け、その際に自己点検をし問題点について改善している。
④学院のホームページに一般公開している。

評価基準) A十分に達成している

B達成している

C達成がやや不十分である

D達成が不十分である

藤田 伊藤 青木

項目10 社会貢献・地域貢献 参照:学院ホームページ

点検項目		自己評価	学校関係者評価		
①	自治体事業への協力	B	B	B	B
②	地域住民への貢献、公開講座等を実施しているか	C	C	C	B
③	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	B	B	B	B

◆ 自己点検評価の理由

例年、実施していた活動や事業がコロナ禍で一部中止や延期となり十分な対応が困難であった。以下実施していた事業
①愛媛県障害者スポーツ大会へのサポート ②傷害予防のための地元中学校へのストレッチ指導 ③地元青年団主催行事に対するボランティア活動 ④地元河川の清掃活動 他、地域支援事業への参画は継続し対応する。
ボランティア活動は、学生の学業に支障のない時間帯や曜日になるため、学生の休日・休日や自主勉強、健康やストレスなども考慮し、学科、学年別、有志など無理のない範囲で行えるよう学院として可能な範囲で継続的にサポートしていく考えである。

◆ 学校関係者評価 総評(理由・ご意見等)

<藤田委員による総評> 附属病院、グループ関連施設があり、臨床実習の機会が充実している点は、本学院の強みだと思います。 これからも医療従事者としての高い専門性と人に寄り添える豊かな人間性を備えた理学療法士、作業療法士の育成をお願いします。 本校を含め、県内には様々な障がい種別の子どもを対象とする特別支援学校があります。それぞれの学校現場で、子どもの指導・支援に関して、理学療法、作業療法の専門的な見地から助言をいただけるような仕組みがあれば有り難いです。
<伊藤委員による総評> R3年度もコロナ対策で例年に増して課外活動や学生・教職員・実習先との連携に大きな影響を残したと思います。 項目5「学生支援」の③経済的支援体制は各種奨学金制度、特待生・成績優秀者の学費免除制度、地元進学による経済的メリット、専門学校と大学の違いなどHP上詳細に公開して、リハ専門職を志す学生・保護者にも大変理解を得やすい内容、情報でありB評価としました。 項目6「教育環境」の③防災体制の整備は、大規模災害に備えて耐震補強工事が進むことと有事の際の在校生の安否確認などの対応策を望みます。 感染対策が進み、コロナ脱却と共存活動による学習が有意義に進むようこれまで同様創意工夫して優秀な人材育成を期待します。
<青木委員による総評> 今回も自己評価の理由や学院のwebサイトを確認しながら評価しました。 コロナ禍の中での学校運営や教育活動は大変なことの連続だったと思いますが、学生のために様々な対応をされていたということは、自己評価からも感じております。少しずつ社会活動が元に戻っている状況なので、それに合わせてコロナ禍で得られた良い点を継続し、またこれまでに進んでいた内容、方法で良かった点を再開されることで、より良い形となっていけたらと考えます。 一方で、耐震工事が完了していないといった内容も見受けられました。工事の予算や工期、学事・講義等教室の割り振りなど、調整も大変かと思いますが、一日でも早く完了することを願っています。